

## 会 議 録

会議名	平成 26 年度第 2 回 八王子市市史編さん審議会	
日 時	平成 26 年 8 月 19 日 (火) 午後 2 時 00 分～午後 3 時 45 分	
場 所	八王子駅南口総合事務所会議室	
出席者氏名	委員	松尾正人会長、相原悦夫副会長、池上裕子委員、井上晶宏委員、 落合隆委員、岸本弘子委員、沼謙吉委員、前田成東委員、光石知恵子委員
	理事者	
	説明者	穂坂敏明市史編さん室長、齋藤和仁市史編さん室主幹
	事務局	(説明者のほか) 佐藤広市史編さん室専門管理官、 長谷部晃一市史編さん室課長補佐兼主査、秋山和英市史編さん室主査
欠席者氏名	上田幸夫委員	
議 題	<b>【審議事項】</b> 1. 『新八王子市史』の進捗状況について 2. 刊行物についての意見交換 3. その他	
公開・非公開 の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	1. 平成 26 年度市史編さん事業の組織体制 2. 市史編さん事業における刊行物刊行実績及び計画 (案)	

## 1. 開会

【齋藤主幹】平成 26 年度第 2 回八王子市史編さん審議会を開会する。第 3 期として第 1 回目となる。改選後初めての会議となるため、会長が決まるまでの間、事務局で進行する。10 名中 9 名の委員が出席なので過半数を超えているので、本日の委員会は有効に成立している。初めに、市史編さん室長から委嘱状の交付を行う。

【齋藤主幹】続いて、委嘱に際し、市史編さん室長から一言挨拶を申し上げる。

【穂坂室長】委員改選後最初の審議会ということで、一言挨拶を申し上げる。委員への就任をいただき、心より御礼申し上げる。この審議会は、市史編さん条例に基づいて設置されている。市史編さんに関する重要事項を調査・審議するものだ。このため、さまざまな分野で活躍している皆様に、委員としての就任をいただいている。ご承知のとおり、平成 19 年度に市史編さん事業がスタートし、資料編については、本年度の近世の刊行で全て出そろった状況だ。一方、本編については、さきに刊行した自然編を皮切りに、これから刊行を開始する段階を迎えている。市史編さん事業期間の 10 年という大事業のまさに佳境を迎えている状況だ。来年度、八王子市は中核市としてスタートする。多摩地区のリーディングシティにふさわしい市史編さんを目指したいと思っている。市民からも喜ばれる市史編さんをするためにも、ぜひ活発な議論をお願いしたい。

【齋藤主幹】次に委員の紹介だが、一言ずつ自己紹介でお願いしたい。

【相原委員】これまでの 2 期は副会長として選出していただいた。3 期目は、編さん事業も終盤を迎え、本編の編さんに差しかかる。これからも一生懸命やる。

【池上委員】市史編集専門部会の中世部会に所属している。つい先ごろ、資料編を刊行することができたが、さっそく、本編の執筆に取りかかっている。

【井上委員】公募市民の立場で参加させていただく。もともと八王子の生まれでも育ちでもないが、中央線沿線が好きでずっと住んでいる。年とともに下って、今は高尾に住んでいる。高尾山が間近にあって、すぐ向かいの山が御陵だ。八王子は自然だけではなく、歴史も豊か。それが八王子の魅力とずっと思っている。

【落合委員】八王子商工会議所の専務理事の立場で参加させていただく。専門的な知識はないが、事業者の立場から発言したいと考えている。

【岸本委員】公募市民の立場で参加させていただく。4 歳の頃から八王子で暮らしている。

当時と比べてきれいになった浅川で、子どもや地域のボランティアの方々と一緒に野鳥の観察をしたりすると、この八王子で、これから何ができるかという気持ちになる。自分なりに八王子に貢献できることは何かというところで、公募市民に応募した。自分のできることで尽力していきたい。

【沼委員】八王子に生まれ、八王子に育ち、いろいろな経験をしてきた。一番大きな経験は、昭和20年8月2日の空襲だ。歴史に興味を持ったのは中学の1年のときだ。地域に尽くした人物を調べたことで、近藤勇や土方歳三が多摩の人間であると知ったことがきっかけだ。それから、昭和19年、戦争が熾烈を極め、自分の目の前で織機が次々壊され軍事工場に変わっていった。そんな経験から、八王子の歴史に大変関心を持っている。今後もずっと関わり続けていきたいと考えている。

【前田委員】審議会は3期目になるが、同時に市史編さんや執筆にも携わっている。近現代部会に所属しており、時代としては最も新しい部分になる。既に2冊の資料編を刊行しており、今後は本編の執筆が中心となる。まさにこれからが山場だが、現代を取り扱っていることもあり、一番の懸案は、どこまで取り扱うかということだ。

【松尾委員】近代史を主に勉強している。多摩に移ってきて、フィールドをこちらに移しながら研究をやっている。自治体史編さんについては、八王子市も含め、武蔵村山市など北多摩の地域に携わってきた。多くの皆さんに、八王子の古いことを教えてもらいながら、しっかり勉強していきたいと思っている。

【光石委員】結婚を機に八王子に住むようになり、これまで、近世史料を扱ってきた。3期目に入り、いよいよ追い込み時期となった。執筆者の方々も大変だと思う。八王子市は、人口も面積もほかの市と比べ物にならないほど大きく、歴史も物すごい数になる。そんな中で『新八王子市史』ができ上がってくることは大変いいことだと思う。

【齋藤主幹】続いて、会長・副会長の選出を行う。審議会条例により、会長・副会長は、委員の互選により行うこととなっている。選出方法について、何か意見などあるか。

【光石委員】事務局はどのような考えか。

【齋藤主幹】事務局としては、第1期、第2期に続き、松尾委員を会長に、相原委員を副会長に推薦させていただきたい。

(異議なし)

【齋藤主幹】異議なしということで、会長に松尾委員、副会長に相原委員ということで決定する。

【松尾会長】指名をいただいたので、会長を務めさせていただく。議題の最初が、八王子市史の進捗状況について。市史編さんの進捗状況だが、既に予定期間の3分の2ぐらいの年数がたち、資料編もほぼ順調に進み、通史編が残されている状況だ。この点を踏まえて事務局からの説明後、議論いただきたい。また、確認事項として、会議は公開とする。傍聴者についてはなし。議事録の署名は、五十音順で相原委員に願います。

## 2. 『新八王子市史』の進捗状況について

【松尾会長】事務局からの説明をお願いします。

【齋藤主幹】委員改選後初めてとなり、新しい審議委員も加わっているので、今までの説明と多少重なる部分もあるかと思うが、改めて説明する。

八王子の市史編さん事業は、平成19年度から10年をかけて行うということで、順次体制を強化しながら現在に至っている。

市史編さん審議会については、市長の諮問後、基本事項を審議・答申することとなり、これまで当初の市史編さん計画、変更後の計画を答申している。あわせて、計画どおりに事務局が事業を進められているかをチェックするのも審議会の重要な仕事であり、適宜審議会を開催し、報告をした上で意見をいただいている。

市史編集委員会については、市史編集に関する専門的な重要事項等を協議している。市史編集委員会には市史編集専門部会が設置され、市史を実際に中心となって編集している。原始・古代、中世、近世、近現代、自然、民俗の6部会に分かれており、総勢約182名が調査研究・執筆等の編さん事業を進めている。

事務局は、室長1名、主幹・課長職1名、主査2名、主任学芸員1名、その他の主任がもう2名、編集を担当する任期付職員2名、それから専門管理官1名、市史編さん専門員7名の計17名という体制だ。また、資料整理補助として、適宜臨時職員を任用している。

続いて、ここまでの刊行実績と今後の刊行計画について。25年度までの刊行物については、計画どおりに刊行してきた。25年度は自然編、資料編2中世、資料編6近現代2を刊行した。また、附帯刊行物として、検地帳集成、聞き書き織物の技と生業、市史研究第4号を刊行し、25年度は計6冊を刊行した。

26年度は、最初の通史編となる原始・古代編、資料編として最終巻となる資料編4近世2の2冊が刊行予定だ。附帯刊行物としては、データで見る八王子の近現代、八王子市西南部地域 浅川の民俗、それから八王子市北部地域 加住の民俗の3冊が刊行予定だ。市史研究については、市史研究第5号の刊行を予定しており、この第5号で一旦休刊の予定だ。

続いて、資料収集とマイクロフィルムの作成状況について。当初より大きな課題である編さん事業終了後の資料の保存や活用については、今後重要になっていくと考え、資料を配付した。

資料収集状況だが、20年度から本格的な資料収集が始まり、25年度末現在11万4,457点の資料を収集した。このことに伴うマイクロフィルムの作成状況については、224万5,600コマの撮影となっている。

資料収集は、編さん作業に合わせて資料収集を進めてきたが、23年度がピークとなっており、そこから少しずつ編集作業に力点を置くようにシフトしてきている。マイクロフィルムの作成は、現在は終了してしまった補助金制度を最大限に利用して、22年度には120万コマを撮影し、編集作業に大いに役立っている。

報告は以上だ。

【松尾会長】最初に組織体制、次に刊行計画、最後に資料収集とマイクロフィルムの説明があった。この三つの順番で議論していきたい。

最初に組織体制について、どうか。

【相原副会長】公募市民で今回が初めての方もいる。平成25年度に組織改正があった。事務局から説明して欲しい。

【齋藤主幹】平成19年度から事業を進めているが、八王子は市域が広く、人口も多い。そのため、10年間で編さん事業を完了させるという点で心配がある。事務局も人員体制については強化を図り、現在に至っている。補足となるが、市史編さん専門員は現在7名だが、24年度までは6名だった。編さん作業と並行して、資料の保存整理まで行うのは困難であったため、資料整理担当1名を増員した。また、組織自体も、総合政策部内の市史編さん室という位置づけから、25年度の市の組織改正で、市長直下の独立した組織に変更となった。

【松尾会長】研究協力員13名について、説明してもらえるか。

【齋藤主幹】さまざまな分野で、八王子についての研究を長くしている方々に、研究協力員という立場で協力をいただいている。

【井上委員】具体的にはどのような形で協力しているのか。

【齋藤主幹】13名の方々の専門性はそれぞれで、中には高齢の方もいる。実際に文章を書

いたり、編集に協力いただいたりするのではなく、持っている知識に関して、折に触れて相談をさせてもらっているのが実情だ。

【落合委員】 調査員、専門調査員、特定部会委員について、説明してもらえるか。

【齋藤主幹】 調査員と専門調査員は、スキルやキャリアに応じて決定している。調査員よりは専門調査員の方がよりスキルやキャリアがある。

特定部会委員は、恒常的に部会の活動にはかかわらないが、執筆や編集に際して、特にその分野の高い専門性が必要な場合をお願いしている委員だ。

【松尾会長】 自然の分野は多岐にわたるので、部会ですべてを網羅するのは困難。特に高い専門性が必要な場合をお願いしていると理解した。

次に、刊行計画について、どうか。

【沼委員】 資料編 2 中世が刊行された。27 年度にはその本編が刊行予定だ。印刷等の関係もあると思うが、原稿を仕上げるまでにあと 1 年と数か月だ。

【池上委員】 入稿を考えると、執筆期間は 1 年ないと思う。

【沼委員】 1 年半くらいあるかと思ったが。その期間で書き上げなければならないが、ページ数は大体 1,000 ページくらいか。

【池上委員】 800 ページを予定している。

【沼委員】 800 ページにしても、大変な量だ。

【池上委員】 中世だけでなく、ほかの部会も大変な作業量だと思う。全体的に大変な時期に入ってきていると思う。

【相原副会長】 校正回数は普通 3 回で校了だ。逆算すると、執筆期間は非常に短い。効率良く、また、内容も確実なものを目指してやって欲しい。

【松尾会長】 資料編 2 中世は非常に厚い刊行物となった。あれだけの厚さの資料編というのはほかにないのではないか。通史編についても大変なことが予想できる。

【佐藤専門管理官】 当初の計画素案を作ったが、方針の一つに、行政の仕事の中の市史編

さん事業ではなく、時代に即した新しい市史編さん事業をという考え方があった。市制 90 周年のときの企画だ。その後、事務局を立ち上げたが、戦後すぐであれば、歴史研究に詳しい人たちが集まって計画を立て、すぐに資料調査を開始ということになったかもしれない。しかし現在、八王子市は市民協働を行政のベースに掲げていることから、地元の研究者や先生方、あるいは先に市史編さんをやられた方々の意見を聞くために、50 人くらいの方にアンケートをした。それから、一般市民にも広く意見を聞き、審議会の中で議論して計画を立てた。市制 100 周年記念事業であるため、期間が限られており、ある程度の無理がある計画になったが、議会や審議会においても特に異論はなく、この計画が実現した経緯がある。時間的には非常に厳しい計画ではあるが、とても重い結果として出てきている計画だ。

【松尾会長】刊行計画やこれまでの実績を見ると、3分の2の期間が過ぎ、ここが勝負どころの山場かもしれない。そういう意味では、一番大変な時期の審議会ということになると思う。

【相原副会長】編さんの経過、概要の説明があったが、平成 24 年度に刊行計画の一部を修正した。そういった経緯もあり、現段階での残り少ない期間の中で、さらなる変更はあり得ない。市制 100 周年記念事業という前提のもとに成り立っている事業であるため、多少無理な点があるにしても、その時点までに刊行を終了しなければいけない。審議会で決定した計画であるため、個人的な思いはあると思うが、残された期間で全巻刊行を遂行する、これは守っていただきたい。

【光石委員】これまでの刊行状況については、多少時期がずれたものもあるが、ほぼ順調ではないかと思う。市町村史というのは延びるのが普通で、5 年や 10 年の単位でできるわけがないというのが認識としてあった。しかし、市の決められた予算の中で、しかも今回は市制 100 周年記念事業のため、決められた期間の中でけりをつけていかなければいけない。執筆者の大変なご苦勞はよくわかる。それから、旧市史と大きく違うのは、資料編がかなり充実している。旧市史は、戦後それほど時がたっておらず、資料編がなかった。資料編がないところに本編は書けない。それは大きな力になる。

また、ちょっと先走ってしまうかもしれないが、マイクロフィルム化について。主に古文書が多いと思うが、資料が多数集まっており、これは八王子市にとっては非常に文化的な財産になる。文書というのはご存じのとおり、和紙に書かれている。和紙というのは 1,000 年たっても変わらないものだ。古代から引き継がれているものがあるというのは、八王子市の本当に大きな財産だと思う。

八王子市は、地理的にも歴史的にも大きな意味を持つ市だ。それを後世に引き継いでいかなければならない。公文書館にどうつなげていくか。これが次の課題として、編さん審

議会でもそろそろ取り上げて、次の体制にきちんとつなげていくような努力をしていかなければいけない。八王子にはたくさんの大学がある。歴史のある大学もたくさんあり、八王子市の資料、主に近世や近現代、中には中世もある。しかし、それを見に行くと、卒論や修士論文に使うというのがあまりない。最近は少し違うかもしれないが、郷土資料館では、夏期に学芸員養成講座の実習を毎年やっており、かなりの人数の学生が集まる。そんな学生でも、八王子市の資料を使って何か論文を書くというのはあまり聞いたことがない。これだけの大学がありながら、若い人たちが集まっていながら、とてももったいない。市史編さんが終わった時点で、きちんと利用できるような体制が整っていないと、宝の持ち腐れではないかと思っている。

【松尾会長】 マイクロフィルム化について、先ほど補助金の話が少しあったが。

【齋藤主幹】 緊急雇用創出事業臨時特例の補助金が創設された時、マイクロフィルム撮影が補助金の活用要件を満たしていた。100%補助のため、市の持ち出しがなく活用できた。限られた市史編さん事業の予算だけでは、重要なものを優先するため、全部をマイクロフィルム化するのは不可能であったが、補助金を活用した結果、大部分のマイクロフィルム化が実現できた。マイクロフィルム化したものは、紙焼にして整理してある。資料整理については、この補助金を活用した結果、だいぶ進んだと感じている。

【松尾会長】 市史編さんは、資料を集めて整理して、そして刊行物にするということが基本だが、集めた資料を整理・保存していくという過程で、特にマイクロフィルム化をすれば、後で様々な形で利用できる。非常によかったと思う。

### 3. 刊行物についての意見交換

【齋藤主幹】 前回までの審議会での意見交換の後刊行したものは、資料編 2 中世になる。現在の八王子市域の中世資料を網羅的に収録したものだ。とりわけ、八王子城主として知られる北条氏照の活動にかかわる資料については、可能な限り収録した。発行部数が 1,500 部、A5 判の 1,075 ページ、頒布価格は 3,000 円だ。8 月 1 日より販売を開始しているが、非常に売れ行きが好調だ。特徴としては、日本全国からの問い合わせが多いことだ。

【松尾会長】 池上委員、何か補足はあるか。

【池上委員】 八王子には石造物がたくさんあり、板碑に加え、五輪塔や宝篋印塔なども徹底的に調査をした。実際には落ちてしまったものもあるが、中世資料を網羅的に入れるという方針のもとで、何とか 1,075 ページで収まってよかったと感じている。資料所蔵者が全国各地に存在するため、その掲載許可を得ることが非常に大変だった。通史編でも同じ

問題が起こると思うので、なるべく早めに対応できるようにしたい。通史編の執筆にも取りかかっているが、これがなかなか難しく、これからもっと頑張らないといけないと痛感している。

資料編 2 中世については、読みやすいように、読み下し文や丁寧な解説をもっとつけられたらよかった。1,000 ページに収まるかどうかということがあったので、そういったサービスマンで、少し不十分であったかなと感じている。

【松尾会長】非常に見やすく、読みやすい感じがする。ゴシック体を取り入れることで、パッと目に入りやすく、親しみやすいのではないかなと思う。

【沼委員】1,000 ページ超というのは、今までの市史にはない。大変な仕事であると思う。口絵も非常にうまく選択されている。口絵は要点を押さえていて、大変わかりやすい。それから、作図もあるが、非常に緻密に書いてある。とても丁寧で正確だ。1 点や 2 点ではなく全部だ。真剣に取り組んでいることが伝わってくる。

#### 4. その他

【松尾会長】事務局から何かあるか。

【齋藤主幹】第 3 期は、収集した資料の保管や公開に関しての意見もいただくようになると考えており、これに先立ち、先進自治体の視察を実施したい。

市の状況としては、郷土資料館の建てかえは決定しているが、場所や規模、用途すら決まっていない。この状況下で、施設を含めた論議が始まってしまうと、実際の計画が決まったときに、少しずれてしまう可能性がある。視察等をしながら、まずは稲荷山にある資料をどうしていくかという論議を中心にしたと考えている。そこで本日は、視察候補地として考えている長野市公文書館の便りを配付した。長野市公文書館を候補地とした理由は、八王子市は 27 年度に中核市になるが、長野市も中核市で規模もかなり大きい。人口、面積、資料数等を含めて、八王子市の参考になるであろうと思えるところが一つ。それからもう一つは、八王子市は廃校となった稲荷山小学校を施設として再利用しているが、長野市もまた、NHK 長野放送局を再利用している施設という点だ。可能であれば、10～11 月の時期で視察を実施したい。

【松尾会長】全体のスケジュールの 3 分の 2 が終わり、編さん事業はこれからが一番苦しい時期となってくるが、並行して、市内外から集めた資料を今後どのように保存し活用していくか、これも問題になってくる。今後は、この審議会でも忌憚のない意見交換をして、市民の声を反映させていくことが大事になってくる。他の自治体を見学して、その上で議論し、その結果を引き継いでもらうことも大事と思う。具体的な視察場所や時期も挙がっ

てはいるが、現時点では未決定。実施の可否も含めて、まずは議論をしたい。

当初、神奈川県の寒川文書館を視察したことがあった。八王子市よりは規模の小さい市だが、小さい市でありながら、文書館があり、そこで資料をきちんと整理・保存していくという、一種のモデルになっているような市ではないかと思った。視察に行くと、やはり勉強になることが多い。八王子市の膨大な資料をどうやって、より充実したものにしていくか。審議会委員の協力がなければいけないと思う。忌憚のない意見をいただきたい。

【相原副会長】古文書や公文書の保存・活用については、各自治体とも条例等を作っているが、非常に漠然としている。論議を進める上でも、具体的にどのような保存体制や活用方法があるのか、実際に目で見て、それを参考にすることは非常に重要ではないかと思う。長野市公文書館が候補に挙げられているが、市の規模や蔵書量を考慮した場合、八王子市と重なる部分が多い。非常に参考になるのではないかと思う。

【前田委員】あくまで参考だが、八王子市都市政策研究所において、公文書管理についての共同研究を行った。『まちづくり研究はちおうじ』という定期刊行物に報告があるので、ご覧いただきたい。市史編さんが中心ではなかったが、市史編さん室からも二人の職員が参加して共同研究を行った。そのときの主な内容を少しだけ紹介する。

一つは、公文書管理法が施行され、自治体でも公文書管理をどのようにするかを本格的に考えていくこととなった。八王子市でも、この文書は1年保存、これは何年保存と決めており、機械的に廃棄していくと、貴重な文書になり得るものでも捨てられてしまうということが問題となった。

それからもう一つが市史編さんだ。当時、編さん事業はまだ随分先があるという感じだったが、いよいよ佳境に入ってきた。集めたものをどうやって保管するか。保管するだけではなく、その保管したものを市民にいかにしてうまく検索してもらって、閲覧できるようにするか。そのような関心があった。

それから、郷土資料館の老朽化についても関心があった。郷土資料館は全く別のものとして建てかえ、公文書館を独立した建物でつくるというのは難しいのではないか。複合館的なものにしたらどうかといった考えもあった。ある部分で参考になるかと思い、紹介させていただいた。

【池上委員】長野市公文書館は、長野市市史編さん室が同じ場所でそのまま、公文書館になったのか。

【齋藤主幹】そうだ。編さん事業を契機に建てられたという意味でも、八王子市の今の状況と似ていると思う。

【松尾会長】かつては郷土資料館のような場所で、資料を保存していた。歴史的な資料は古い時代のものであり、これは市民の一つの財産だ。一方でまた、市政と密着した重要な資料の側面も持っている。郷土資料館的な側面と公文書館的な側面と、この二つをどのように八王子市として考えるのか。これが大事になってくると思う。別々の館をつくっている自治体もあれば、前田委員からもあったように、両方をうまく取り込んでいる自治体もある。大規模自治体で考えた場合、郷土資料館のような場所だけで済ませるということは、できないようになってきている。そういう意味では、八王子市はここで、大きな区切り、やらなければいけない段階に来ているのではないか。

【井上委員】小平市だったか、古文書を図書館で管理しているという記憶がある。公文書館、郷土資料館に加えて図書館の考え方もあるかと思う。まずどこに資料探しに行くかといえば図書館で、考え方として、一つあるのかと思う。

【前田委員】説明不足だったが、先ほど紹介した共同研究のときにもやはり、図書館機能との連携について議論した。中央図書館もだいぶ古くなり、スペース的にも不足が出てきている。

【井上委員】府中市だったか、公文書館と図書館との連携を重視しているようだが。

【池上委員】場所をどこにするかということも大事で、行きにくい場所では抵抗がある。

【松尾会長】小平市は、市役所から比較的近いところに図書館があり、図書館の上に市史編さん室があった。うまくまとまっていたが、ちょうど今、市史が終わった段階で、今後どのようなになるか。

【齋藤主幹】23区の中にも、いくつかは図書館が公文書館機能を持っているところはあったと思う。八王子市の場合は、議論の前提として、建物部分がまだ未確定。資料は既に集まり整理も進んできたが、編さん事業が終わる時点で、果たして建物部分がどのように用意されているか。財政的なことも考慮すると、全てを博物館的施設で受け入れられるのか、現在の稲荷山施設もサブ的な施設とするのかはわからないが、既存施設の再利用も十分視野にいれなければいけないと思う。いずれにしても保存と、そして市民に対する活用ということで、今は論議をいただきたい。

【松尾会長】市史編さん事業の終了と合わせて、たくさんの課題が山積しており、この審議会としての意見をまとめるということも可能ではないかと思う。そのためにも、長野市公文書館を視察する機会を持ちたいという事務局の提案について、賛成いただけるか。

(はい)

【松尾会長】では、よろしく願います。その他、何かあるか。

【齋藤主幹】事務局からは以上だ。

【前田委員】近現代は、資料編 5 近現代 1 と資料編 6 近現代 2 で分冊されており、2 冊の刊行物となっている。資料編 5 近現代 1 と資料編 6 近現代 2 は、入札の関係で、印刷業者がそれぞれ別だ。2 冊が同じような風合いできちんとできるかという懸念があったが、印刷業者が変わったことに対する意見等があったか。

【齋藤主幹】印刷業者が違うので、見た目が変わってしまったというような意見等はもらっていない。実際は事務局としても、特に同じ時代の刊行物であれば、同じ印刷業者に委託したほうが自然だという認識はある。しかし、市役所では必ず入札に付し、競争させなければならない。それでも今のところ、印刷業者が違うので問題があったという指摘はない。

【前田委員】近世も同じように分冊されるが、印刷業者が変わるのか。

【齋藤主幹】近世は、同じ印刷業者が落札した。

【前田委員】1 冊ずつ、それぞれ個別に入札するのか。

【齋藤主幹】一つ一つの業務について、きちんと入札をするルールになっている。

【前田委員】近世は今後、本編が上下巻同時に刊行される。これについても同じか。

【齋藤主幹】この年度の 5 冊、6 冊をまとめてということは無理だが、近世の本編上下巻に関しては、それぞれで異なる印刷業者となれば余りにも煩雑なので、これは可能と思う。逆に最初からこの二つをセットにしたほうが、価格的にも下がると思う。

【松尾会長】一つ一つの入札がルールだが、落札業者が違った場合、出版されたものにどう反映するか、これが非常に心配だ。入札のときには、各部会の責任者からここはこうだということを出していくことも必要と思う。

5. 閉会

【松尾会長】 それでは、閉会とする。

平成 26 年 8 月 19 日

会議録署名人 相 原 悦 夫